

法人名	社会福祉法人 白百合会
施設名	西川島保育園

発表者名 (職名)	佐藤めぐみ (保育士)	住所	横浜市旭区西川島町134-11(西川島保育園)		
発表者名 (職名)		TEL	045-373-0257	FAX	045-373-0272
発表者名 (職名)		メールアドレス	nishi-kawashima@minos.ocn.ne.jp		
		URL			
		定員	90名	職員数	37名

発表の概要・内容

【保育士の心もちで保育が変わる！子どもの姿が変わる！】

私自身カイコの飼育は初めての経験だった。図鑑をみながら、自分なりに調べたりしていた。5/17近隣の園との交流保育でカイコの卵をもらう。子ども同士がふれあい、直接やり取りをする。その時初めてカイコの卵を見る子どもがほとんどであった。実際に経験したことで、導入もしやすかった。

飼育活動が始まり約1ヶ月が過ぎた頃、私は子どもと一緒にやっているつもりだった。でも実際は違った。大人が全部先行していることに私自身が気が付いていなかった。

6/11(金)飼育していく中でカイコが大きくなり、持ち帰らなくてはならなくなった。その時子どもに「どうしたらいいのか」投げかけてみた。子どもから出た言葉は「先生がお家に持って帰ればいいんじゃない」だった。子ども自身がどうするのかではなく、受け身の姿勢が強かった。そこで初めて「子どもにとってカイコの存在ってなんだろう？」と深く考えてみた。私自身手や口を出しすぎたこと、子どもの気づきを奪っていたことに気が付いた。これを機に、週明けの6/14(月)私からのアクションを一切やめてみた。途端に子どもの姿が変わった。その日のうちに変化が見られた。「桑の葉がないよ」から「桑の葉がないから取りに行ってくる!」、「うんちだらけだね」から「どうやって掃除するの?」となった。「自分がなんとかしなくては!」と思えるようになり、子ども自ら気が付き保育士に聞きに来るようになった。その後飼育の面白さに気付いていった。お世話をしても病気になるし死んでしまうカイコもいて、生き物を育てることの楽しさと難しさを身をもって知ることができたようだった。

【タイミングを見逃さない！感動したときが絶好のチャンス！】

カイコが大きくなるにつれ、保育士の中で次の悩みが出てきた。この先繭になること、そのための家が必要であることは分かっていた。子どもにどう導入すればいいのか考えた。大人が教えるのは簡単だが、それは違うだろう。何よりも子どもの思いを尊重したかった。そんな時、偶然にもカイコの卵をくれた園から交流のお誘いが来た。「今がチャンス!」と思い、交流先の先生に意図を説明し、「カイコマンション」を見せて欲しいとお願いした。

6/18(金)保育園交流の場で、実際の「カイコマンション」や本物の「繭」を見せてもらった。子どもたちは、本物を目の当たりにして食い入るように見ていた。初めて見て・触って・感激した子どもたちは、園に戻るとすぐに「カイコマンション」作り始めた。園にある材料を使って夢中になって作っていた。そして今まさに、作っている目の前でカイコが家に入ってしまった。そんなカイコの姿を目の前で見たことで、より感動に繋がった様子が見られた。7/2全てのカイコが繭になり、何個できたかみんなで数えてみた。数える際、可視化することで子どもにとっても分かりやすく、イメージがしやすいのではないかと思います。全ての繭を1列に並べながらひとつずつ数えていった。最終的に211個の繭が出来た。驚き・悲しみ・喜びなどの様々な感情を、友だちや担任と共感し最後まで育てたことで、一人ひとり、そして集団としての達成感を味わえたのではないだろうか。子どもの小さな疑問は絶好の学びのチャンスだと思う。子どもの気づきや発見・感動に寄り添い、その瞬間を共に味わっていただけるような保育士でいたいと思った。

メモ